

## 【漁況】

### [マアジ]

#### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成27年は15万2千トンとなりました。

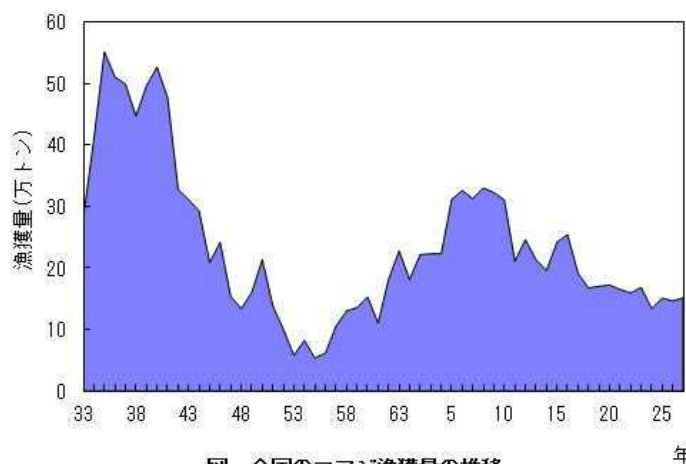


図 全国のマアジ漁獲量の推移

#### 2. 県内の平成 29 年 1 ～ 3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕島周辺、天草沖で漁場が形成されました。

薩南海域では、立目崎沖、野間池沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、マアジ仔（1 歳魚：平成 28 年生まれ）主体に、期全体で 2,061 トンの水揚げで、前年の 427 % 及び平年の 219 % となりました。

#### 3. 県内の平成 29 年 4 ～ 6 月期の見とおし

漁獲の主体はマアジ小（1 歳魚：平成 28 年生まれ）で、マアジ仔・豆（1 歳魚：平成 28 年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

漁獲の主体となる 1 歳魚（平成 28 年生まれ）が前期に前年・平年を大きく上回って漁獲されたことから、来遊量は前年・平年を上回ると考えられます。

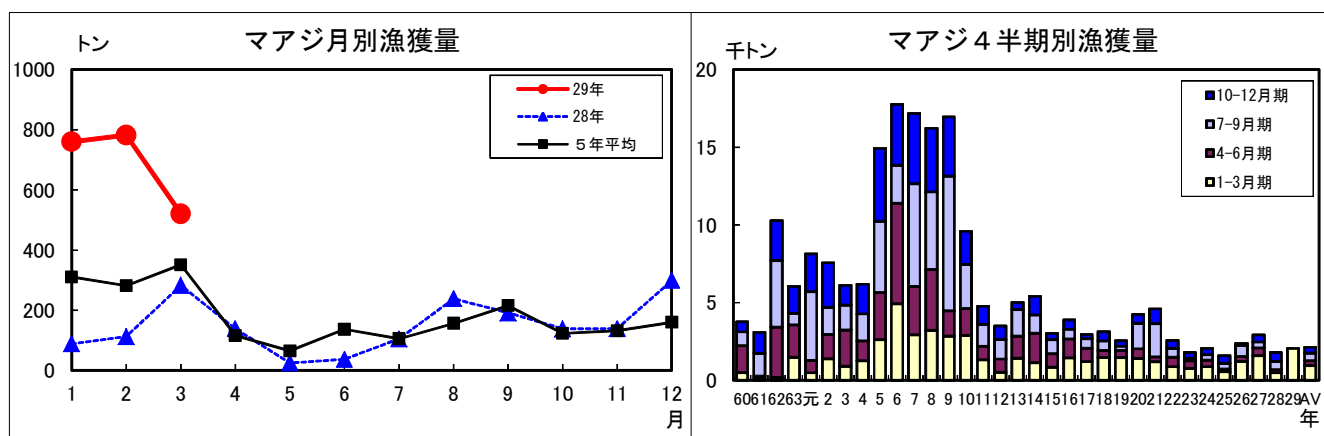


図 マアジまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値（AV）、平成 29 年 3 月 29 日までの水揚量を使用

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークに年々減少し、平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが、平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年に65万トンまで増加したあと減少傾向となりましたが、平成27年は前年を上回る55万7千トンとなりました。

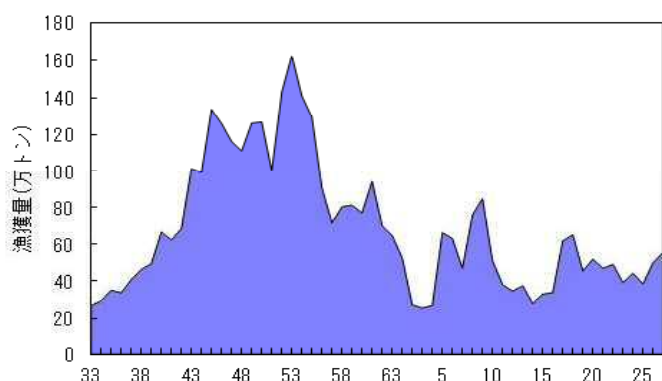


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 県内の平成 29 年 1 ～ 3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域では、馬毛島、立目崎沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、ゴマサバ中（2, 3 歳魚：平成 27, 26 年生まれ）主体に期全体で 6,253 トンの水揚げで、前年の 152 % 及び平年の 105 % となりました。

また、3 月にはマサバ中（2, 3 歳魚：平成 27, 26 年生まれ）のまとまった漁獲が見られました。

### 3. 県内の平成 29 年 4 ～ 6 月期の見とおし

漁獲の主体はゴマサバ中（2, 3 歳魚：平成 27, 26 年生まれ）でしょう。

来遊量は、前年並で、平年を下回るでしょう。

（根拠）

前期に前年を上回る漁獲がありましたが、これは 3 月にマサバが突発的に漁獲されたためであり、今期主体となるゴマサバは前年並の漁獲量であることから、来遊量は前年並で、平年を下回ると考えられます。

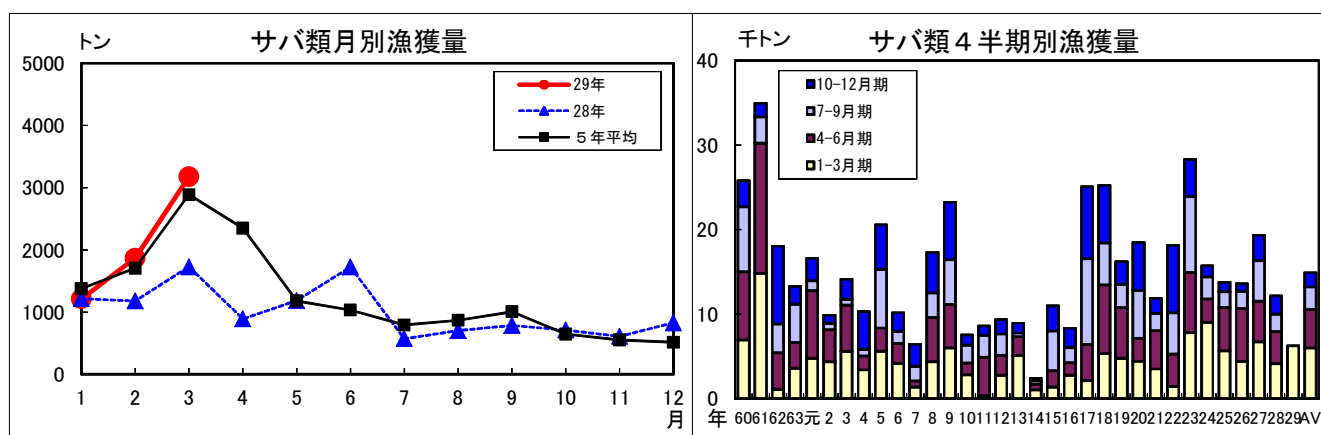


図 サバ類まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値 (AV)，平成 29 年 3 月 29 日までの水揚げ量を使用

## [マイワシ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、平成25年以降は20万トンを超える漁獲が続き、平成27年には34万トンとなりました。

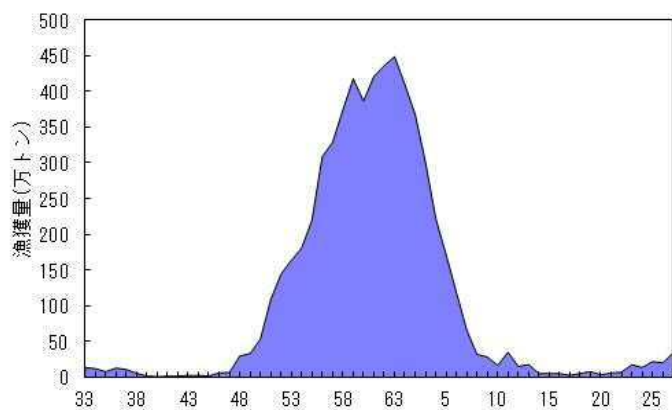


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

### 2. 県内の平成29年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、天草沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、立目崎沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中羽（1歳魚：平成28年生まれ）主体に185トンの水揚げで前年の38%、平年の45%でした。

北薩海域の棒受網は、3トンの水揚げで前年の26%、平年の10%でした。

### 3. 県内の平成29年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、4月では中～大羽（1歳魚：平成28年生まれ）、5月以降は小羽（0歳魚：平成29年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

産卵親魚と考えられる1歳魚（平成28年生まれ）は、昨年9月以降低調な漁が続いていることから、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

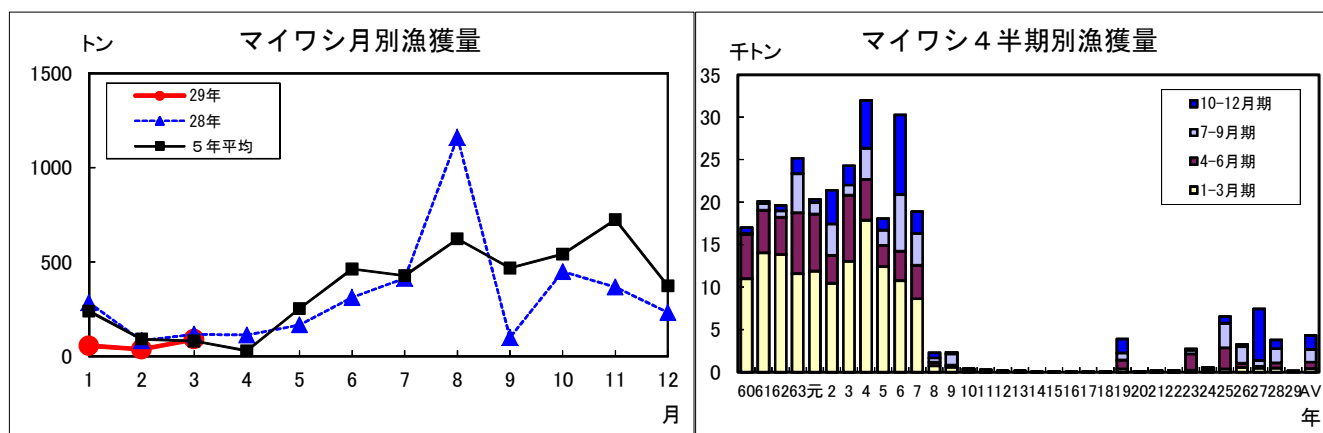


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成24～28年）の平均値(AV)、平成29年3月29日までの水揚げ量を使用

# [ウルメイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成27年は9万7千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となり、高い水準を維持しています。

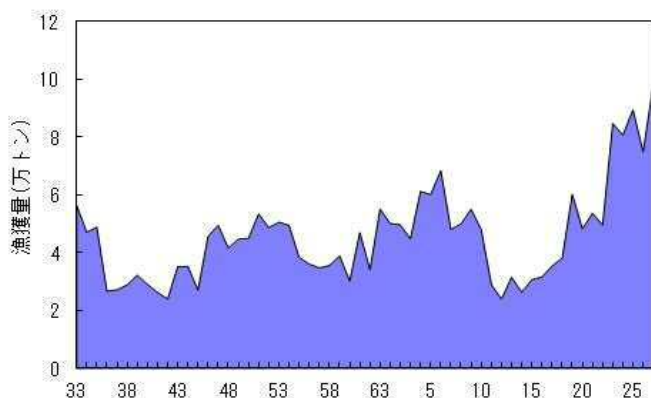


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の平成 29 年 1 ～ 3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺、天草沖、牛深沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、立目崎沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中羽（1 歳魚：平成 28 年生まれ）主体に 1,583 トンの水揚げで前年の 106 %，平年の 165 %でした。

北薩海域の棒受網では、265 トンの水揚げで前年の 145 %，平年の 157 %でした。

## 3. 県内の平成 29 年 4 ～ 6 月期の見とおし

漁獲の主体は、4 月の中～大羽（1 歳魚：平成 28 年生まれ）、5 月以降は小羽（0 歳魚：平成 29 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年並でしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

産卵親魚と考えられる 1 歳魚（平成 28 年生まれ）は、前期まで好調で推移していることから、来遊量は好調だった前年・平年並と考えられます。

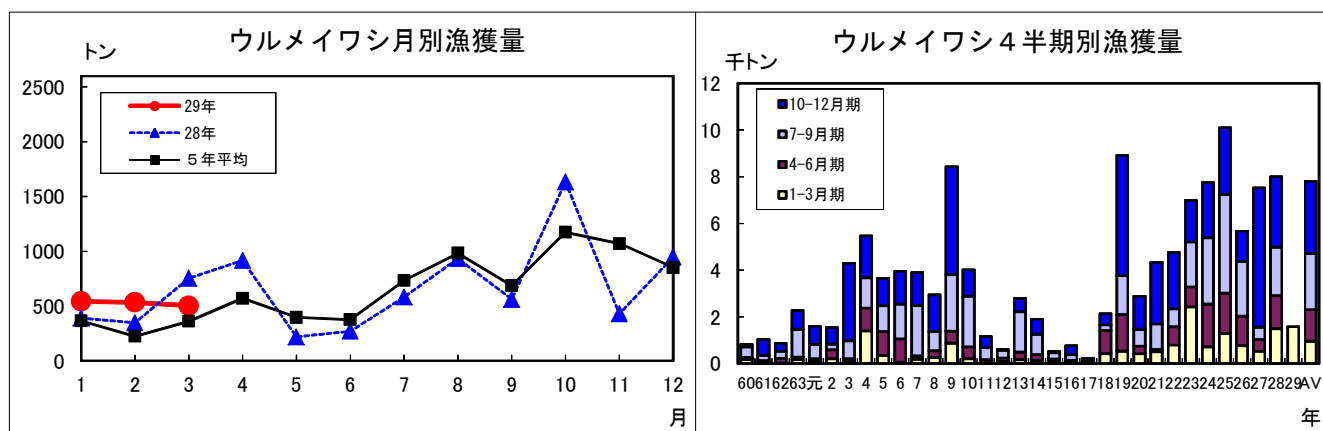


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値(AV)，平成 29 年 3 月 29 日までの水揚げ量を使用

## [カタクチイワシ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成27年は16万9千トンとなりました。

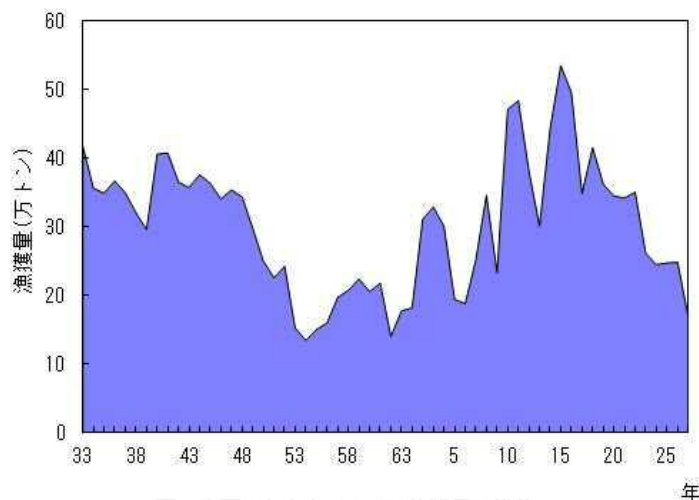


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

### 2. 県内の平成 29 年 1 ～ 3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、長島（内海）、天草沖に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、開聞沖、枕崎沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中羽（平成 28 年生まれ）主体に 673 トンの水揚げで、前年の 31 %、平年の 116 %でした。

北薩海域の棒受網では、川内沖、長島（内海）に漁場が形成され、235 トンの水揚げで、前年の 1,162 %、平年の 224 %でした。

### 3. 県内の平成 29 年 4 ～ 6 月期の見とおし

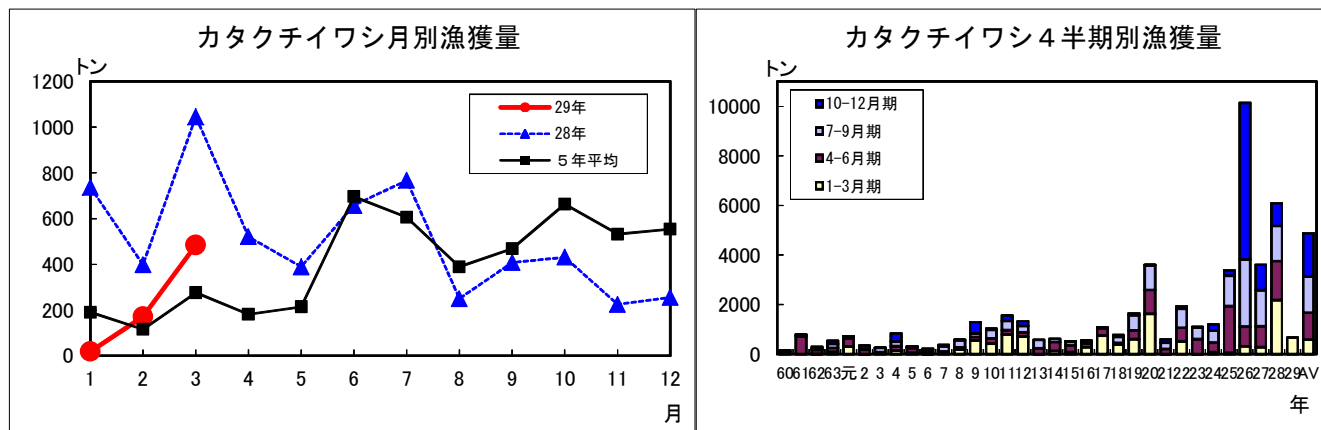
漁獲の主体は、大羽（平成 28 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年を下回り、平年並でしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる大羽の漁況は平年並に推移しており、大羽の来遊指標である平成 28 年西薩海域バッチ網春漁の漁況も平年並だったことから、非常に好調だった前年を下回り、平年並になると考えられます。



## [イワシ類参考資料]

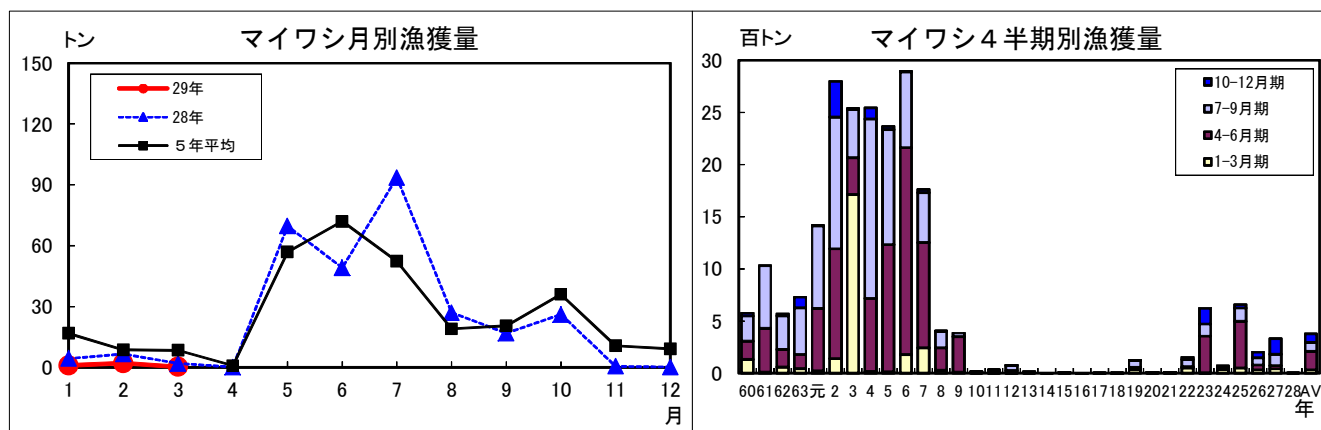


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

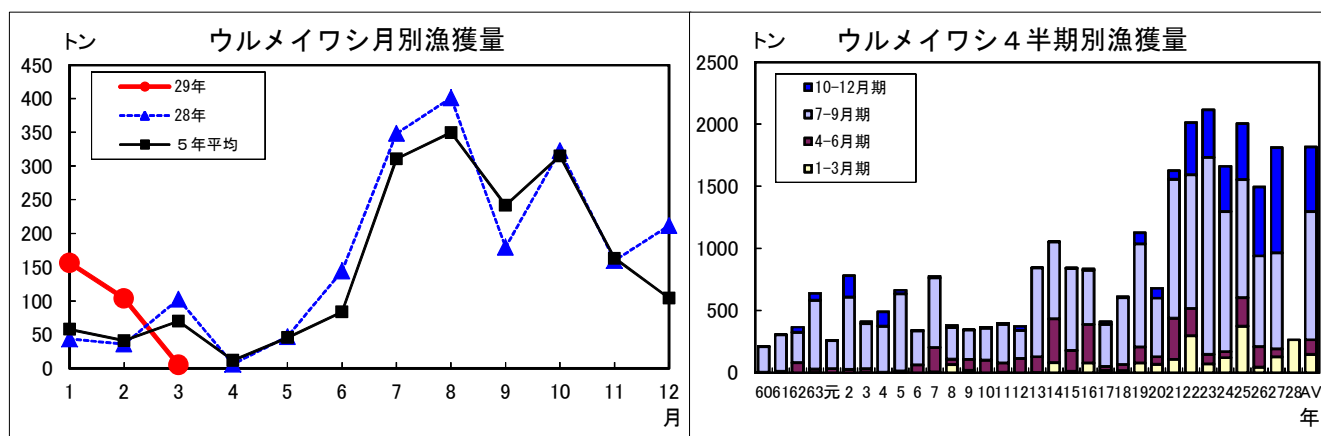


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

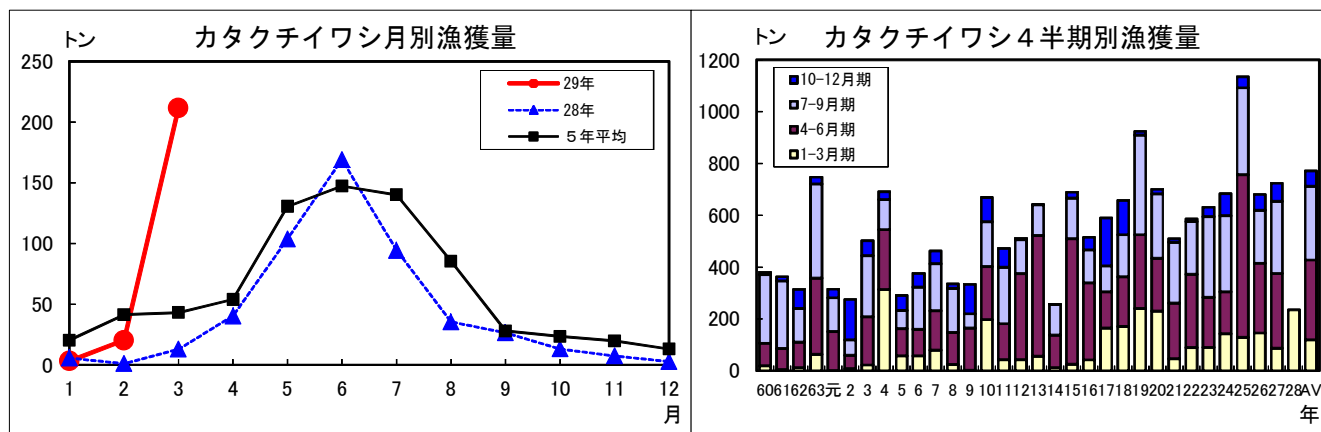


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成24～28年)の平均値(AV), 平成29年3月22日までの水揚量を使用



## [参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ、モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成 29 年 1 ～ 3 月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成 2 年の 21,700 トンをピークに急減し、平成 6 年以降は、1,500 トンから 5,000 トンの間での推移しており、平成 28 年は 4,943 トンとなりました。

4 港計のまき網では、屋久島東、種子島東でクサヤモロ小、クサヤモロ豆主体の漁場が形成されました。期全体で 669 トンの水揚げで、前年の 96 % 及び平年の 132 % でした。

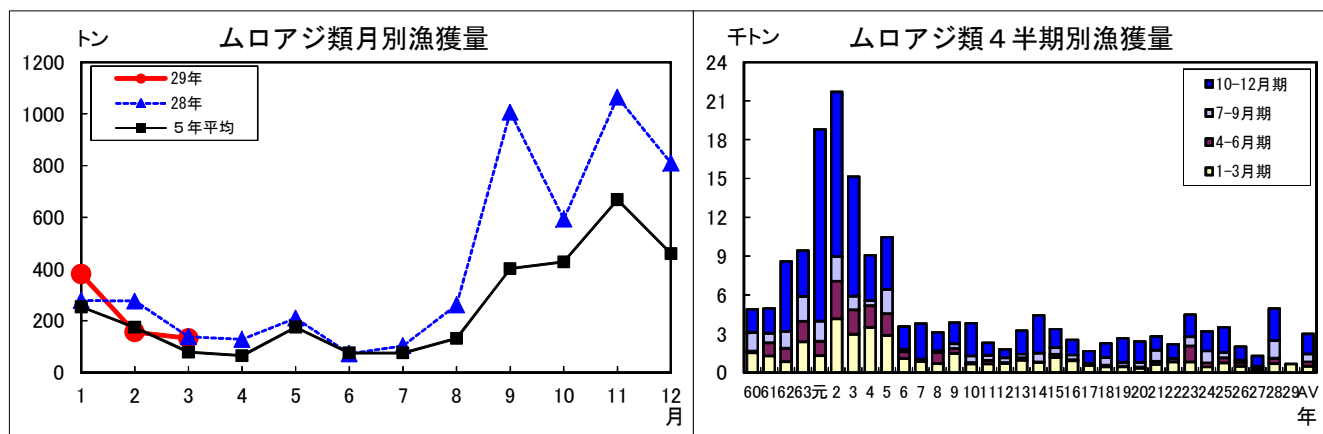


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値 (AV)，平成 29 年 3 月 29 日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成 29 年 1 ～ 3 月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の 5,300 トンをピークに一旦減少し、平成 7 年に 4,400 トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成 20 年に一旦増加したあと再び減少傾向を示しましたが、平成 28 年は 2,442 トンと、平成 12 年以降最も多く漁獲されました。

4 港計のまき網では、種子島東、屋久島東で中小、小主体の漁場が形成されました。期全体で 551 トンの水揚げで、前年の 48 % 及び平年の 144 % でした。

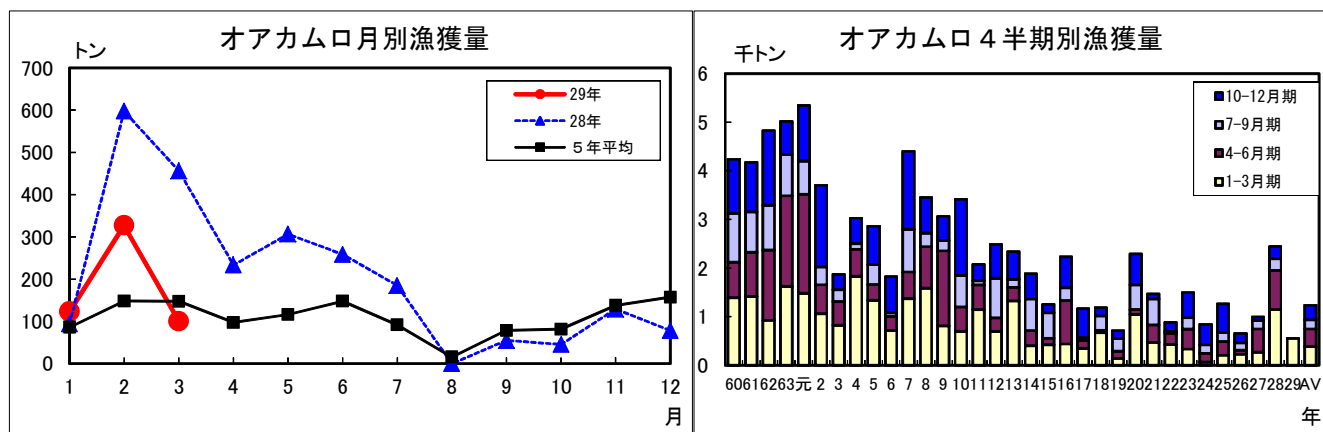


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値 (AV)，平成 29 年 3 月 29 日までの水揚量を使用

# 〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4 港計）〉

## 県内の平成 29 年 1 ～ 3 月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は，昭和 62 年から平成元年に 1,500 トンを超えるピークがあり，その後低調に推移し，平成 12 年から 15 年に再度ピークを迎え 15 年には 3,150 トンと最高を記録しましたが，平成 16 年以降は低調に推移し，平成 28 年は 323 トンとなりました。

4 港計のまき網では，野間池沖で豆，小主体の漁場が形成されました。期全体で 96 トンの水揚げで，前年の 52 % 及び平年の 42 % でした。

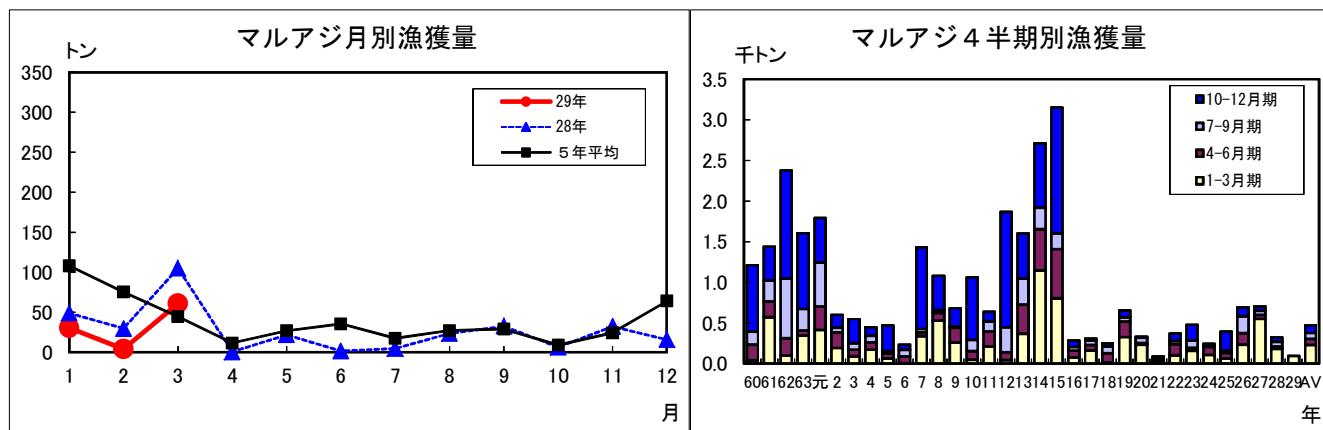


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値 (AV)，平成 29 年 3 月 29 日までの水揚量を使用